

## ありふれた薬でも心配



さて、このコラムに書くべきか否か。大いに迷った。テーマは、認知症にさせる第9条、「薬をいっばいのませる」である。

高齢者には、多種類の薬をのんでいるひとが多い。だれもが、大丈夫かと思っている。若いひとの中にも、薬の副作用に過敏なひとだっているのだ。そこへ、薬で認知症になるかもと書くのだから、先が思いやられる。

パニックになった患者さんが、「この薬は大丈夫か?」「認知症にならない保証はあるのか?」「などと、主治医に詰め寄ることがあったら、バカなことを書いてくれたと、ワッシーは医者仲間から響

## 認知症にさせる第9条

聲を買つかもしれないのだ。

でも、書くことにした。ごくありふれた薬でも、長期に服用していると心配なものもあるからだ。注意力が低下し、したことや聞いたことを忘れる。軽度認知障害だ。3年以上続けると、ホントの認知症の危険性が1・5倍になるといっ報告もある。

その代表的な薬は、抗コリン剤である。アセチルコリンを減らして、気管支や胃腸、膀胱などの副交感神経の過剰な働きを抑える薬である。そのアセチルコリンは、記憶や学習に不可欠の神経伝達物質でもある。長期に抗コリン剤をのんでいると、認知機能は落ちる。

## ダラダラ飲み続けないで

ことに高齢者では、どんな薬も体にたまりやすい。色んな薬を長くのできて、体の調子は良くなつた。でも、「この頃、ちょっと忘れっぽい」といっひとは、ご用心。薬の服用を見直す良いチャンスでもある。そつだ。そのレベルなら、まだ大丈夫。薬を中止すれば、2週間から4週間で元に戻るはずである。とにかく、薬をダラダラ続けないことが肝要だ。

というのに、今日も、「忙しいから、いつもの胃薬を2カ月分くれ」といっズボラな患者さんがきた。どうしよつ。

(石黒修三 いしぐろクリニック 脳神経外科専門医、金沢市在住)